

会 議 録

1 会議名

第2回上越市総合計画審議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) まちづくりに込める想い（公開）

(2) 将来都市像（案）（公開）

3 開催日時

令和4年5月31日（火）午後1時30分から3時30分まで

4 開催場所

上越市役所第一庁舎4階 401会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：大谷和弘、卜部厚志、大久保明子、小泉美佐子、林泰成、山縣耕太郎、市川克巳、柴野嘉紀、阿部利夫、井澤翼、小林桂、高橋慶一、高橋信雄、中條美奈子、羽深真一、蓑和章、金子彰、飯塚多佳志、大山賢一、関原英里子、青木ユキ子、牛田光則、打田亮介、江村奈緒美、徳道茂、山崎活美
- ・事務局：池田企画政策部長、大島企画政策課長、志賀参事、内山副課長、海津係長、新保主任、丸山主任、伊倉主任、上石主事

8 発言の内容（要旨）

(1) 開会

会長あいさつ

【林泰成会長】

本日はお忙しい中ご出席を賜り、感謝申し上げます。

今回が第2回目となるが、前回の会議において、現状を把握できるようなデータを提示して欲しいとの意見があり、人口動態に関する補足説明があるとお聞きしている。

また、1世代先を見据えたまちづくりに取り組むため、市民の意見や思いを踏まえ、約18年後となる2040年のありたい姿を整理し、まちづくりに込める思いや、そこに向けた上越市が目指す2030年の将来都市像の提案が取りまとめられていると伺っている。

本日は、事務局から説明をいただく原案に対して、委員の皆様から、専門的な視点やこれまでのご経験から、忌憚のないご意見を頂戴したい。そうしたご意見を、計画の記述内容、具体の取組に反映させていきたい。

(2) 報告

【事務局（伊倉主任）】

第1回会議の内容及び上越市の人口動態について、資料1、資料2により説明。

【金子彰委員】

新潟県と東京都の給与額の違いについて、実態としては新潟県がもう少し低くなるのではないかと。毎月勤労統計調査によると全体で月に12万円程度、製造業単体でも新潟県と東京都には差があるとの結果がある。これらを踏まえれば、年間で200万円程度差が出てくるのではないかと。

【事務局（伊倉主任）】

今回お示ししたデータは大学卒の新任者の初任給に限って比較をしたものである。就業者全体の給与額では新潟県は低い水準にあり、全国や東京に比べて大学卒の就業者が少ないことなどが影響していると考えられる。

【金子彰委員】

大学卒業者であっても、地場の企業と東京に本社があるような大手企業とで比較すると、2万円から3万円程度違うのではないかと。若者が流出するという点に関して、やはり給与の面もあると思われる。

【事務局（伊倉主任）】

お示ししたデータは物価差も反映している。

【金子彰委員】

それは承知しているが、東京は衣食住でいえば住は確かに高いが、通勤時間が1時間30分から2時間の範囲で考えれば安いところもたくさんある。はじめから物価差を反映して比較するのがそもそも違うのではないかと。

【事務局（伊倉主任）】

今後の分析の参考にさせていただく。

【山縣耕太郎委員】

図表の4-7について、同規模の佐久圏や三条圏などで転入数が大きく増加しているにもかかわらず、上越市の転入数が増加していないのはなぜか。

【事務局（伊倉主任）】

佐久圏については、軽井沢といった人気の高いリゾート地を含んでおり、東京からの転入数が増加しているものと考えられる。三条圏等の増加については、理由までは把握できていない。

【山縣耕太郎委員】

IターンやJターンについては、言い方は悪いが限られた人口を取り合っているような状況であり、好転しているところとそうでないところの比較は重要であると思う。今回のデータは時系列での推移が多いが、条件が類似した自治体と比較することで上越市の立ち位置がわかりやすくなると感じるため、そういったデータも今後提示いただけるとありがたい。

【大谷和弘副会長】

4-8のグラフにある、「家族」や「戸籍」について、説明願いたい。

【事務局（伊倉主任）】

「戸籍」については主なものは結婚を理由とした移動である。「家族」については、家族の転勤に伴って、一緒に転入・転出するようなものが当てはまる。なお、こちらで示した異動理由は自己申告であることから、実態とは差がある可能性があることには留意願いたい。

【高橋信雄委員】

2-4に若年女性人口の推移があるが、同時に若年男性人口についても示すべきではないか。資料を見ると、性別では、女性の転出が男性に比べて圧倒的に多い。この傾向はしばらく続いており、男性側からすると、結婚しようと思っても相手がないというような状況になっている。女性の流出については、若い女性の求める仕事为上越市にないということが繋がってくる。他の自治体と比較したデータなどはあるか。

【事務局（池田部長）】

他の自治体との比較は、最新のデータでできるかという点はあるが、何らかの形で比較は可能であると思われる。若い女性の求める仕事がないということは大きな課題の一つであると認識していることから、本審議会の中でご意見をいただきたい。

【高橋信雄委員】

市内の経営者は案外そういったことに気付いていない。女性の社会進出という言葉自体が古くなり、経営者が雇用するときには男女の区別もしていないが、やはり圧倒的に女性が少ない。企業側の情報発信の仕方が悪いのかもしれないが、どこかで歯止めをかけられる問題だとも思っている。女性が増えれば結婚する人が増えるのかという問題もあるが、もう少しデータを集めていただき、目指す方向のようなものが明らかになるとありがたい。

【飯塚多佳志委員】

2-3のグラフについて、比較している福知山市は人口規模が7~8万人で、上越市の半分以下、沖縄県に至っては県単位となっており、上越市と規模や各種環境等が異なると思われることから、なるべく近い条件の自治体と比較していただけるとありがたい。

【事務局（池田部長）】

ここで年齢別の出生率を比較した意図は、出生率が高い地域と上越市や全国平均を比べたときに、どこの年代の出生率が高いのかをお示しすることであった。結果としては、比較的出生率が高い地域では若い年代から出生率が高くなっており、その分、第二子・第三子と設けられているということがわかった。

【牛田光則委員】

2-1の合計特殊出生率について、令和2年に大きく減少している要因は何か。

【事務局（伊倉主任）】

独身者の割合が増加していることは一つの要因であると考えられる。また、令和2年は国勢調査が実施された年であり、計算に使われる人口の数値が前年までとやや異なったことから、年齢構成で差があり、低めに出ている部分がある。

【事務局（池田部長）】

補足だが、合計特殊出生率は年齢別の出生率を足し上げて算出しているが、令和

2年度の20歳から29歳の女性の人口の分布が一時的に増えており、それが全体の出生率を押し下げた結果となっている。これが一時的な傾向なのか、今後も続いていくのかについては引き続き注視していきたい。

【中條美奈子委員】

若い女性が減っていることで結婚する人が減っているとの話があったが、市外に転出した人の話を聞くと、上越市は仕事もないし、結婚にふさわしい相手もないと感じているようだ。確かな数字ではないが、年収が300万円を超えると結婚する人が増えるというようなデータがあったかと思われる。男性であれ女性であれ、今の上越市の若い人の収入がどうかということは確認すべきであり、年齢別の給与額などが分かるとよいのではないか。

(3) 議事

議題(1) まちづくりの大切な考え方

議題(2) 将来都市像（案）

【事務局（海津係長）】

資料3、資料4により説明。

【大山賢一委員】

まず2040年のありたい姿を目標として定めた上で、第7次総合計画の目標はその10年前の2030年ということだが、10年のギャップがある目標が二つ並んでいることに違和感を覚えた。2040年を見据えた上で、その前段階として2030年までにどこまでまちを充実させ、最終的には2040年の目標を達成するという方向性が見えないと市民にとって分かりづらいのではないか。

また、この計画の責任者は市長ということになるかと思うが、市長が責任をもってこの計画に定めた目標に向かっていくということが市民に伝わるようにして欲しいと感じた。

【事務局（池田部長）】

今回お示ししたのは2040年の目標ということで、市民の皆さま、または庁内で議論するときの具体的な目標になっていくものと考えている。また、計画の期間内で何をどこまでするのかということを検討していく中で、一つのメルクマールになっていくのではないかと考えている。

今回、まちづくりに込める想いと将来都市像を設定するに当たり、将来の姿を細

かく積み上げていく中で2040年の目標を導き出したが、普遍的なものに収束したというところである。その中で、「上越市ならでは」としたのは、様々な議論をしてきた中で、自然が豊かであるとか、歴史文化を大切にしたいであるとか、共助の精神といった話があったので、そういったものを享受できるような快適な暮らしを目標として掲げることを考えた。8年間の計画を考える中で、まずは生活の質・暮らしの質を上げていくということがあり、そのためには若者が希望をもって暮らしていけるようなことを目指していく必要があると考えたところである。「暮らしやすく、希望あふれるまち」は、市長の所信表明でも話をした言葉だが、この言葉が当てはまると考えて今回提示したところである。2040年の姿を踏まえた上で演繹的に導き出したものではあるが、個別の取組も検討した上で使っていきたい。

【金子彰委員】

第6次総合計画の評価という点で、この間の社会の変化や目標と結果の差などをどのように捉えて第7次総合計画を策定していくのかという考えをお聞きしたい。

【事務局（大島課長）】

令和3年度に1年間かけて行政内部で第6次総合計画の評価・検証作業を実施しており、内容については第1回の審議会でも報告させていただいた。結果としては概ね7割で目標を達成したという状況である。

【蓑和章委員】

参考資料4について、もう少し詳しく説明願いたい。

【事務局（池田部長）】

こちらは大きく二つに分けて整理しており、一つは今ほど大島課長から説明した第6次総合計画の評価・検証を通じて、社会の変化なども踏まえて、今後どのように進んでいきたいかということ行政内部で整理したもの。もう一つは市民の意見ということで、参考資料1で示してあるように、市内20団体に対して個別にお話を伺ったり、参考資料2で示したように、市民意見交換会を開催し、70名ほどの方からグループワークでご意見をお聞きしたほか、市のホームページからも20代・30代を中心に意見をいただき、それらをこちらで分野別に整理した。また、第1回審議会でも委員の皆さまからいただいた意見や、1月に実施した市民の声アンケートの自由記述欄の意見の主なものを抽出している。

このように、行政内部の意見と市民の意見を我々でキーワードという形で31に

まとめ、それをさらに5つに分類し、市民からの意見であった強みや魅力を斟酌したものが、「まちづくりに込める想い」である。

【菘和章委員】

資料を見ると、グループインタビューでは上越市の強みや弱みについて聞いているが、市民意見交換会では聞いていないように見えるが、これはなぜか。

【事務局（海津係長）】

参考資料2の中には記載していないが、市民意見交換会でも強みや弱みを聞いた上で、将来のまちの理想の姿について聞いている。参考資料3に記載した内容は市民意見交換会や市民の声アンケートなど、市民からの意見を全て取り入れて記載しているものである。

【牛田光則委員】

内容が漠然としており、市民に対するメッセージ性が乏しく感じる。今までの上越市政と変わらないと感じ、そうであるならば、自分の住んでいるような山間部は切り捨てられていくのではないかと感じた。2040年には山間部がなくなりそう、あるいはなくなっているという状況ではないか。将来都市像の「暮らしやすく」の説明に、全ての分野で安心感や満足度を高めるとあるが、こうした状況の中で、消滅しそうな集落に対しても責任を持っていくような覚悟が上越市にあるのか。地域が残るかどうかという瀬戸際に際して、危機感を伝え、必死で取り組んでいくという姿勢がわかるようなメッセージを明確に出してほしい。

また、高齢化が進む中、一人一人平等にという観点も大切であるとは思いますが、高齢者が増えるとそちらの意見が重視されてしまい、若者の声が届かないということも考えられる。若者に対するメッセージ性を強めてほしい。

【事務局（池田部長）】

ご指摘のとおり、明るい未来だけではないが、前向きにまちづくりを進めていくために、このように提示したところである。まちの形を今後どうしていくかということは議論があり、いただいた意見も含め、危機感を将来都市像のフレーズの中で表すのは、かえって危機感を煽りすぎるということも考えられるため、将来都市像の背景を文章で説明する中でお示しするような形とさせていただきたい。

また、アフターコロナの中で社会の変容にキャッチアップしていくような方向感について、本日頂いた意見や具体の施策も含めて提示していきたいと考えており、その

中でまたご議論いただきたい。

【林泰成会長】

今ほどいただいた意見は、本日の議題である将来都市像をどうするかということにつながっているものである。関連する意見があれば発言いただきたい。

【関原英里子委員】

行政での検証がしっかりとされていると感じた。市民の声として上越市が住みやすいとのことだが、そのことがあまり知られていないのではないか。この住みよい上越市をどう告知していくかということが課題であると思うし、告知していく中で、大学があるとか、女性が働きやすいとか、子育てがしやすいとか、どこに特化していくかということも課題になってくると思う。

【事務局（大島課長）】

まちづくり市民意見交換会の中でも同様の意見をいただいている。そこは行政としても認識しており、上越市の発信という面でどういった形で政策に落とし込んでいくかということを検討していかなければならないと考えている。

【大山賢一委員】

2040年という設定については国が示している2040年問題のことかと感じた。上越市は都会以上に厳しい状況になることが想定される中、今回示された市のあり方は夢や希望が並んでいて心配したというのが本音だが、今後の各論の中で具体的な取組が見えてくるとよいと感じた。

また、資料4を見ると、説明のほとんどが「暮らしやすく」の内容になっており、「希望あふれる」の内容が少なく、大きな柱として見えないことから、なくてもよいのではないかと思ったところである。

【井澤翼委員】

今ほどの大山委員からの話にもあったように、上越市は今後加速度的に人口が減っていく中、数値目標や中間的なプランが現状見えないので、本当に2040年にこの目標を達成できるか不安なところがあった。

【金子彰委員】

上越市は医療・福祉・介護体制といった面では全国平均に比べるとやや良い水準にある。ただ、これだけ広大な面積を有しており地区によっても状況に格差はあると思われる。市内の地区別の人口の推移を予測した上でこれからの上越市がどのよ

うな行政サービスができるかということ具体的に盛り込んでいく必要があるのではないか。

【羽深真一委員】

資料にある2040年のありたい姿を見たときに農林水産分野のところに中山間地というキーワードがあるが、これは農林水産分野だけの問題ではないのか。中山間地の文化と暮らしが認められているとあるが、非常に難しい問題である。今後、分野別に具体策が出てくるものと思うが、十分に議論をいただきたい。

また、農林水産業の魅力の発信という面から、先ほどPRが弱いとの話もあったが、県内や市内でもまだまだ知られていない魅力がたくさんあると感じているので、その点も留意いただきたい。

【林泰成委員】

時間も迫っており、ここでいただいた質問について事務局からも一言いただきたい。また、本日の議題である「まちづくりに込める想い」と「将来都市像」について、批判的なご意見もあったかと思うが、今後どうするかということも含めてお示しいただきたい。

【事務局（池田部長）】

貴重なご意見を多数いただき感謝申し上げます。今回、まちづくりに込める想いとして提示したものは、行政がネガティブな考えを持ちがちなか中、どうしたら前に進んでいけるのかといったことを考え、市民それぞれが幸せを感じる暮らしを実現するためにどうしたらよいかと検討してきたものである。今ほどの厳しいご意見も行政としては承知しているが、どちらかといえば前に進んでいくという面を表現し、厳しい部分はその中に含めながら提示をしていくという考えでお示ししており、全く楽観的に考えているわけではないということをご承知おきいただきたい。

前半のデータ分析についてもいろいろとご意見をいただいております、地区別の将来人口推計等も含めて、もう少し委員の皆さまと現状の共通認識が持てるようなデータを提示し、議論を深めていきたい。

2040年には高齢者の人口がピークアウトし、地域を支えていた人たちの人数が減っていく。減った人口をいかに活動人口の増加で補っていくか、あるいはコミュニティに関わっていく人数を増やしていくか、あるいはレジリエンスと言われるような観点での地域づくりや循環型の社会を作っていくかといった観点を念頭に

置きながら、具体の政策を提案させていただきたい。想いは想いとして、実際にそれが実現できるかということについて、議論が深められるような資料の提示をしていきたいと考えている。

【林泰成委員】

それでは、資料4の内容については継続審議ということでよいか。

【事務局（大島課長）】

そうしていただきたい。

【大谷和弘副会長】

事務局へお願いだが、2時間という短い時間の中でこれだけの委員全員から意見をいただくのは不可能であると思われる。委員から随時意見や質問ができるような窓口の設置を検討いただきたい。

【事務局（大島課長）】

手法を検討し、幅広く意見を頂戴できるようにしたい。具体的な方法については、できるだけ早く個別に連絡させていただく。

【林泰成委員】

今回は引き続き基本構想部分について審議を行う。

(4) 閉会

企画政策部長挨拶

【池田企画政策部長】

大変貴重な意見を多数いただき感謝申し上げます。厳しい意見もいただきましたが、それだけ真剣に考えていただいている証左であると感じている。本日、十分に発言できなかった委員についても、ファックスやメール、あるいは場合によっては職員が直接お伺いして意見をお聞きしながら、官民を挙げて将来に向けて歩みを進めていくような計画にしていきたい。引き続きの協力を願いたい。

(5) その他

【事務局（内山副課長）】

次回開催日程等の事務連絡。

9 問合せ先

企画政策部企画政策課企画調整係

TEL : 025-520-5625

E-mail : kikaku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。